

令和2年度 大田区立大森第一中学校 自己評価 報告書

令和3年3月5日

○ 本校の概要

- ◆教育目標 「共感・納得・理解できる指導」を基盤として、生徒・保護者や地域の信頼に応える教育活動を推進し、公教育の使命を果たすため、以下の目標を掲げる。
・きまりを守り、責任を果たす人になろう ・自ら進んでよく働く人になろう ・心身ともに健康で情懷豊かな人になろう ・互いに尊重しあい思いやりのある人になろう
- ◆生徒数 全校生徒231名(1年:70名、2年79名、3年82名) ◆教員数 16名
- ◆学級数 7学級(1年:2学級、2年:2学級、3年:3学級)
- ◆特色ある教育活動 全校道徳、カサコ稚魚放流、池上自動車学校と連携した自転車安全教室、ツウエイコミュニケーション、学習新聞作り、ボランティア活動

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	
								コメント	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にややかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	【アンケート回答 保護者:173名 生徒:223名】 1. 外国語教育指導員を活用しながら、本校教員もオールイングリッシュの授業進行に努め、英語によるコミュニケーション能力育成に取り組んだ。 2. 美術・技術・家庭でのづくりに取り組んだ作品や、上級学校訪問や出張職場体験などをまとめた新聞を作り、校内展示会に出品した。 3. 授業ではICT機器を活用した授業を行いながら、研修では全ての教員が学習用タブレットのオンラインによる活用の仕方などについて学んだ。 4. 道徳授業地区公開講座で学年ごとに主題を設定し資料を活用した授業を行い、保護者が参加する意見交換会を行った。 5. 縄跳び週間は、授業中での取り組みに変更して行った。マラソン大会は行事の精選により中止となり、2,3年生のみ授業の中で行った。	A 5	◆これからの社会では外国語は必須だと思う。読む、書くだけでなく、聞く、話すことは大切な。オールイングリッシュの授業はとてよよい取組だと思う。 ◆コロナ禍で体験学習の実施が困難であったことがうかがえます。その中でも外国語やICTを活用したコミュニケーション能力向上に取り組まれたり、道徳の授業を通して子どもたちが社会に対応できる力をつけられるよう様々なカリキュラムを考えられています。自己評価は適切であると考えます。 ◆(以下の欄)すべてに共通ですが、コロナ対応の学校、教育活動が大変であったと思います。いろいろ考えられた対応をありがとうございました。
			3:80%以上が回答した。			3: 60%以上			
			2:60%以上が回答した。			2: 40%未満			
			1:60%未満であった。			1: 40%未満			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	1. 1学期末と2学期末の面談で、定期考査や学習効果測定の結果をまとめた学習カルテをもとに、学習のつまずきや学習方法について指導を行った。 2. ステップ学習チェックシートなどを利用して自分の分からないところを確認することで、習熟度別少人数指導を有効に活用していく。 3. 「平日の火・木の放課後」「年間6回の土曜日」「夏季休業中の5日間」で、学習指導講師による数学・英語の補習を実施した。 4. 大田区学習効果測定の結果をもとに、小学校と情報共有しながら指導の重点を決定し、授業改善推進プランの内容を生かして授業を進めた。	A 5	◆ステップ学習チェックシートなど、自分の理解度を目で見分けるのはとても良い。(昔はなかった)
			3:80%以上で行った。			3: 60%以上			
			2:60%以上で行った。			2: 40%未満			
			1:60%未満であった。			1: 40%未満			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培います。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	4	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	1. 学習規律について教員が共通理解して共通の指導をすることで、生徒の規範意識を高めることを目指した。小中一貫教育の会が持てなかった中で、地域教育連絡協議会で訪問した際、生徒さんたちが自らあいさつをしてくださり、大変うれしかったです。先生方と生徒さんの関係もほほえましく、アトホームな雰囲気を感じることができました。 ◆今年度は地域行事や学校行事の中止・縮小が多く、音楽祭が生徒たちの様子をうかがい知る貴重な機会となりました。合唱中はもちろん、移動や鑑賞の態度も真面目で立派なものでした。また、休憩時間中の無邪気な賑やかな生徒たちの姿に、落ち着いた学校生活が送れているのだと安堵しました。	A 5	◆保護者アンケートから、保護者の学校の取組に対する評価の高さがうかがえます(9割超)。地域教育連絡協議会で訪問した際、生徒さんたちが自らあいさつをしてくださり、大変うれしかったです。先生方と生徒さんの関係もほほえましく、アトホームな雰囲気を感じることができました。 ◆今年度は地域行事や学校行事の中止・縮小が多く、音楽祭が生徒たちの様子をうかがい知る貴重な機会となりました。合唱中はもちろん、移動や鑑賞の態度も真面目で立派なものでした。また、休憩時間中の無邪気な賑やかな生徒たちの姿に、落ち着いた学校生活が送れているのだと安堵しました。
			3:80%以上の教員が行った。			3: 60%以上			
			2:60%以上の教員が行った。			2: 40%未満			
			1:60%未満であった。			1: 40%未満			
プラン4 健康の体力増進の向上と健康	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。	2	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	1. 「早寝・早起き・朝ごはん」月間に、資料プリントの配付や朝礼、学活での講話を行い、意識啓発を行った。 2. 季節のメニューや食材の産地に関する情報や栄養に関する知識などを、給食日より紹介した。 3. 全教員が体育的行事や部活動指導において、生徒の個性や能力に合った指導を行うことで、自己肯定感の向上を目指した。	A 5	◆身体が一気に成長する時期なので、食生活、しっかり食べることが大切だ。スポーツも大切だ。スポーツが楽しいと思えることが大切だ。 ◆中学生という成長の著しい時期に、食育を含めた健康・体力づくりを入れておられることから、学校の自己評価は適切であると考えます。
			3:80%以上の教員で行った。			3: 60%以上			
			2:60%以上の教員で行った。			2: 40%未満			
			1:60%未満であった。			1: 40%未満			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	1. 授業公開日のご意見の集約を全教員にフィードバックし、授業改善につなげている。 2. 夏季授業改善セミナーは中止となったが、校内研修の研究授業協議会では、主任教諭を中心に助言をおこなった。 3. 区内小中学校の研究発表会は、中止やオンライン開催が多かったが、研究成果を授業改善や学校の取組改善に生かしていきたい。 4. 今年度は特別支援教室開設となったが、教員の十分な理解のもと生徒・保護者の支援にあたるように、これからも必要な研修を進めていく。 5. 学級担任による面談と二行日記、スクールカウンセラーによる面接やアンケート、サポーターの指導報告などにより、個々の生徒を多角的に考えることができた。	A 5	◆今年は満足に授業時間がとれなかったと思います。その中で工夫して、さまざまな学習行事を行い、大変だったと思います。お疲れ様でした。
			3:80%以上の教員が回答した。			3: 60%以上			
			2:60%以上の教員が回答した。			2: 40%未満			
			1:60%未満であった。			1: 40%未満			
域プラン6 めとるな学校でと家庭も進地	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。	2	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合	4: 80%以上	1. ホームページ等により、学校だよりのほか、非常事態における登校対応や行事参観に関するお願いなどを発信した。 2. コロナ禍での地域教育連絡協議会で、学校生活の様子を報告は、ポスティングも使った。資料により授業公開日や行事の様子をお伝えして、評価いただけるよう努めていく。 3. 遊漁船組合の協力によるカサコの稚魚放流を行った。地域の企業・店舗の協力により、職場体験の代わりに職場の方に来校いただき、生徒が話を聞く会も設定した。	A 5	◆今年は行事がほとんど中止となり、地域行事で中学生のボランティアの活躍の場がなかったです。次年度は何とかなしたいです。 ◆地域教育連絡協議会では、写真やスライドを用いて、学校生活の様子、取り組み内容を、丁寧に説明していただきました。コロナ禍ではありますが、大森第一中学校は感染防止対策に配慮しながらも、保護者や地域に学校公開に機会を提供するなど、地域に開かれた学校づくりをされていると強く感じています。 ◆昨年の臨時休校を機に、家庭への情報発信、情報共有ツールとしてホームページ等を活用させていただいております。今後も積極的なご活用を期待しております。
			3:学期2~3回更新した。			3: 60%以上			
			2:学期1回以上更新した。			2: 40%未満			
			1:更新しなかった。			1: 40%未満			